

施策の評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり	
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード 061749
		施策	49	シティプロモーションの推進	本冊ページ 104
	関連個別計画				
	担当部局		政策財務部		
施策の内容(番号)		154		～	155

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価	今後の方向性	担当課
		選択区分	選択区分	
154	さまざまな機会を捉え、本市の魅力や暮らしやすさを効果的に市内外へ情報発信し、さらなる本市の認知度の向上をめざします。	A	①	東京事務所/広報課
155	情報発信ツールを有機的に結び付け、多くの魅力を互いに連動させながら、効果的な地域資源の情報発信に取り組みます。	A	①	広報課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A	ついで等の魅力発信イベントの開催による首都圏におけるPRやロケ誘致に成功した作品と絡めた効果的な津市の魅力発信を行うとともに、市民に親しまれる広報紙の発行やホームページ・アプリケーションの運用・管理による情報発信を行い、シティプロモーションを推進しました。特に、今年度はついでを当初の計画どおり4回、他自治体等との共催については当初の計画より多い6回のイベントを開催したことに加え、令和5年10月から12月に放送された「下剋上球児」の原案が県立白山高校に関するものであったことから、都市部でのパネル展などを実施し、約3,000人の来場者を得るなど効果的なシティプロモーションの取組が進みました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	B	B	A	A				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061749154
		施策	49	シティプロモーションの推進	本冊ページ	104
	関連個別計画					
担当部局		政策財務部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		154	さまざまな機会を捉え、本市の魅力や暮らしやすさを効果的に市内外へ情報発信し、さらなる本市の認知度の向上をめざします。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の 振り返りとこれから (実施評価、事業評価、 今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により 直接的に表れる効果	◆ 当初の 事業実施計画	実施 評価 事業 評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点		
	担当課		何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の 方向性	
154-1	魅力発信 イベント開 催事業	つデイ等の本市 の魅力発信イベ ントの開催	効	首都圏における本市のPR及び 認知度の向上	◆ つデイ4回、他自治体 等との共催5回を予 定	◎	つデイ4回、他自治体等 との共催6回を開催。来場者 の本市への関心度は高く (来場者アンケート「津市に 興味を持った」回答率 55%)、知名度の向上が図 れた。イベントの内容も見 直しを図り、さらなる拡充・ 充実を図る。
			誰	首都圏に在住する人及び企業	◇ 来場者アンケート「津 市に興味を持った」回 答率	○	
	東京事務 所		何	本市の観光、物産及び市内企業 PR等による知名度の向上	1,116 (千円)	拡充・充実	
154-2	津市フィ ルムコミ ッション事業	ロケ誘致等を通じ て映像作品に津 市が取り上げら れることによる魅 力の発掘	効	津市への興味・関心の喚起 イベント来場者等への来場(来 津)	◆ ロケ誘致及び誘致に 成功した作品と絡め た津市のPR活動の 実施	○	令和5年10月から12月に 放送された「下剋上球児」 の原案が県立白山高校に 関するものであったことか ら、地元白山地域及び都市 部(名古屋市栄地下)での パネル展などを実施し、約 3000人に対し、津市の魅力 をPRできた。
			誰	市内外の人々	◇ ロケ件数、訪問者数	○	
	広報課		何	津市の認知度の向上 観光客、移住者の増加 市民のシビックプライドの醸成	208 (千円)	拡充・充実	
154-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
154-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和5年度分)

154-5		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
154-6		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
154-7		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
154-8		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	B	C	B	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061749155
		施策	49	シティプロモーションの推進	本冊ページ	104
	関連個別計画					
担当部局		政策財務部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		155	情報発信ツールを有機的に結び付け、多くの魅力を互いに連動させながら、効果的な地域資源の情報発信に取り組みます。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
	担当課		何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
155-1	広報津発行事業	市民に親しまれる広報紙の発行	効	市政や各種事業・イベント情報などを知る	◆ 月1回以上発行	◎	担当課と相談しながら、令和7年度からの月1回化に向け、記事ボリュームの圧縮を図りつつ、適切に記事の掲載ができた。今後も、担当課と連携を行いながら、より効果的な情報発信を継続する。月1回化に合わせた広報紙リニューアルに向け、よりよい広報紙を目指す。
			誰	市民	◇ 内容に関する市民からの苦情件数	○	
	広報課		何	市民が必要とする正確な情報を得られる	48,982 (千円)	現状維持	
155-2	ホームページ情報発信事業	ホームページ及びアプリケーションの運用・管理	効	市政や各種事業・イベント情報などを知る	◆ 適切な運用管理	◎	担当課からの掲載依頼に対して、広報課で内容やアクセシビリティのチェックを行ったうえで、迅速な発信ができた。今後も担当課の掲載依頼に対して迅速な対応をしていく。さらに今後は、令和8年1月のリニューアルを目指して取り組む。
			誰	市民	◇ 日時指定通りの更新件数	◎	
	広報課		何	市民が必要な情報を必要な時に得られる	6,105 (千円)	拡充・充実	
155-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
155-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和5年度分)

155-5		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
155-6		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
155-7		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
155-8		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。